

湖畔

北海道立大沼学園

〒 041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

「潜在能力」

大沼学園長 内田智能

園長になって半年あまりが過ぎ、駒ヶ岳の頂に白いものが見える季節になりました。この半年あまりを振り返ると、季節の移ろいの早さを感じるとともに、子ども達の成長・変化に驚きを感じずにはいられません。学園では、5月の運動会、6月の遠足、東北・北海道地区少年野球大会、7月のキャンプ、9月の大沼地区少年野球大会、10月のマラソン大会、11月の学園祭など、様々な行事がありますが、行事は、日々の生活の中では感じにくい子ども達の成長・変化をわかりやすく感じることができる場面でもあります。

たとえば、6月の遠足。今年は駒ヶ岳登山に挑戦。6合目からでしたが、火山灰や軽石で足下が悪い中、子ども達は全員、馬の背まで登り切り、大沼の雄大な景色を堪能していました。

また、9月の大沼地区少年野球大会。新型コロナウイルス感染防止のため一部制限を設けましたが、3年ぶりに保護者や関係者に来園していただき、開催することができました。対戦相手は強豪の七飯中学校。4回までに7点を取られ、敗色濃厚の中、4回裏にはホームランも飛び出し、最後まで諦めずに締まった戦いをしていました。

そして、学園最大の行事と言ってもいい学園祭。ちょっとしたトラブルもありながら、子ども達は、それぞれの持ち味を活かし、最高のパフォーマンスを見せてくれました。とりわけ、毎年、トリを努める太鼓クラブは、太鼓を叩いたことのない子ども達が1ヶ月半ほどの練習でこんなに叩けるようになるものなのかと思わせる演奏で、多くの観客の心に響き、感動を呼び起こしていました。

この半年あまりを振り返って、改めて思うことは、「子ども達の潜在能力はすごい」「子ども達は可能性のカタマリだ」ということです。そして、我々大人は、子ども達の発達特性や能力、思考パターン、性格などに配慮し、上手にやる気を持たせ、子ども達の可能性を最大限に引き出す努力を続けなければならないということです。

子ども達の可能性を最大限に引き出し、子ども達が次のステージで少しでも生活しやすくなるような支援をしていきたいと考えておりますので、今後とも、ご理解、ご協力をお願いいたします。



初陣の前に、円陣で士気を高める選手たち
(9月10-11日 大沼地区少年野球大会)

<小学生クラブ>

児童自立支援専門員 佐藤 秀介

今年度の小学生クラブは、最初は6年生が一名、途中で6年生一名と5年生一名を加え、計3名での活動となっています。活動は、学園内の散策やスポーツ（バドミントン、サッカー、野球など身体を動かすもの）から、工作や映画鑑賞など文化的なものも行います。



そんな小学生クラブは少人数ということもあり、例年に比べると、活動中のトラブルは少なかったように感じます。とはいえ、少なからずトラブルや衝突は年相応にありました。彼らは些細なことからトラブルに発展し、「自分は～やりたい」「～と言われて腹が立った」と自分の気持ちに素直なので、その気持ちをそのまま相手にぶつけてしまいます。もしくは、自分の気持ちを上手く表現できずため込んでしまったり。自分自身の気持ちが分からなくなってしまうこともあります。けれども、私はそれを悲観的には捉えていません。その失敗は誰しもが通る道であり経験だからです。小学生クラブはそんな失敗や経験を沢山できる場です。クラブ中、私はいつも子どもたちの成長する瞬間に目を光らせています。彼らは、たった一つの失敗や経験で飛躍的に成長する可能性を秘めており、私は、その子どもたちの成長する瞬間を拾い上げることが仕事だと思っています。今はまだ、彼らは一人では失敗を経験に結びつけるのは難しいかもしれません。しかし、彼らもいずれ社会に出て人と関わり、悩みや困難と直面する時が来ます。「人との関わり方」という学校の教科書には載っていないものを知るには、人と関わる環境に身を置き模索することでしか知り得ません。彼らには、この小学生クラブという「小さな小さな社会」の中で模索し経験を積んで欲しいと願っています。そのために、私たち職員は、彼らと共に遊び、見て、経験して彼らの見えている景色を共有することが大切だと感じています。そして、子どもたちが時折見せる、優しさに溢れた行動や声かけが見えた時は私たち職員が拾い上げ、間違った行動をした時は毅然と関わり、彼らにとって安心して過ごせる環境になるよう努めていきたいと思えます。

課題作文「自分について」

僕の魅力は、優しいところです。僕は、誰かが困っていたら助けられる人です。困っている人をそのままにするのは、かわいそうだからです。

僕は苦手なことに取り組める人です。今は、苦手な算数に取り組むことができます。勉強はやらないといけないことと分かっているからやっています。

僕は、最近太鼓クラブの練習に励んでいます。最初は面倒に思っていたけれど、楽しくやることができているので良かったです。

僕は、将来自動車整備士かカーレーサーになることが夢です。

S.T



課題作文「自分について」

僕の強みは、揉めたりしてもすぐに切り替えができることです。でも、最近できていないときもあるので頑張りたいです。

僕の得意なことは、バドミントンです。なぜかという、昔からやっていて好きになったので練習を何回もしたからです。

僕のかっこいいところは、作業を頑張っていることです。入所したときはあまり頑張れていなかったのですが、今は頑張れていると思います。

僕の良いところは、人が痛がっていたり困ったりしていたら、表ではそう見

えないかもしれませんが、内心では「大丈夫かな」「手伝おうかな」と思っている時のほうが多いです。僕の頑張っているところは、できるだけ相手のことを考えるようにして過ごすことと敬語を使うこと、太鼓の練習です。太鼓は、「郷の音」を一週間という早さで覚えられたので嬉しかったです。 Y.I

課題作文「自分について」

僕は、ガッツポーズが得意です。それに、ゴールキーパーが得意です。

僕の良いところは、文句も言ってしまうけれど、それでもやるべきことをやるように頑張っていることです。ピーマンやパプリカ、玉ねぎ、ネギ、わさび、しょうがなどが嫌いですが、今は嫌いな食べ物を克服するために頑張っています。

マラソン練習では、歩かずに走りきって14分12秒で目標を達成しました。最後には思い切り走ってゴールをして、ガッツポーズをしました。目標を意識して走ったので、練習の成果を本番でも発揮できました。

将来はラリーレーサーになりたいです。あとは、武士にもなりたいです。人を守れる自衛隊にもなりたいです。 H.W



行事報告①

大沼地区少年野球大会

児童自立支援専門員 高間 拓希

9月10日に、3年ぶりに大沼地区少年野球大会が開催できました。近年は新型コロナウイルスや悪天候の影響で実施ができず、児童、職員とも悔しい思いで一杯でした。「今年度こそは」という思いのもと、児童と職員で協力しながらこの日のために準備してきました。

大沼学園野球部の一つの目標である、「沼地区勝利」を掲げながら、厳しい練習に耐え、いざ迎えた本番。相手に先取点を奪われる苦しい展開を強いられるも守備からリズムを作り、攻撃への糸口を作って行きました。追い上げムードの中、チームの長所である打撃力を存分に発揮し、相手に迫ることができました。惜しくも勝利を手にすることはできませんでしたが、ホームランを含む多くの長打や連打、堅い守備など観客の皆様の良いプレーを見せることができたかと思っています。プレー以外でも、最後まで諦めず声を上げる姿は、野球部が始動した春と比べると特に成長した部分でもあり、たくましくなったなと強く感じています。今年度の悔しさを活かし、来年度はぜひ勝利を掴み取りたいと思います。



最後になりますが、今年度の大会に参加して頂いた中学校の皆様、熱い声援を送って頂いた関係者、保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。

来年度についても今大会以上に白熱し、素晴らしい大会にすべく準備を進めていきます。今後ともよろしくお祈りします。

「大沼地区少年野球大会を終えて」

大会では、色々な中学校が学園に来て試合をしました。観客もたくさん来ていて、かなり緊張しました。

他の中学校同士が対戦している間、僕らはアップをして試合に備えました。

試合は、七飯中学校と行いました。僕はベンチスタートだったので応援に精を出しました。なかなか良い試合になりました。中盤では、学園チームに流れが来て雰囲気はさらに良くなり、メンバーの中にはホームランを打って得点を重ねてくれた人もいました。

結果は負けてしまい、個人的に悔いがたくさん残りましたが、中学3年生にとっては最後の大会だったので、来年は学園チームに優勝してほしいと思いました。S.F



「大沼地区野球大会を終えて」

僕は、試合の前から緊張していました。試合ではショートを守っていましたが、簡単なフライをエラーしてしまいました。でも、僕はエンタイトルツーベースを打てました。それでチームの流れが変わりました。その後に、相手チームの攻撃で2ランホームランを打たれ、結果は7対2で負けました。

試合には負けましたが、最後まで出場できて良かったし楽しかったです。K.T

「野球大会を終えて」

9月10日に、大沼地区野球大会が開催されました。初戦は、七飯中学校と対戦しました。僕は最初にサードを守っていましたが、途中でピッチャーをやりました。その日は調子がよく、登板して2回までは0点で抑えました。でもその後に失点し、ピッチャーを交代しました。7対0で5回を迎え、学園チームの攻撃です。三連打が続き、2ランホームランも出ました。すごい当たりで驚きました。自分の打席では、エンタイトルツーベースを打ち、チャンスを作りましたが、結果は2得点で終わりました。

負けてしまいましたが、とっても良い思い出になりました。K.R



中学三年生修学旅行

福祉指導員 佐藤 淳哉

今年も新型コロナウイルスの感染流行が続く中で、感染予防対策を講じた上で、無事に修学旅行を実施することができました。参加した中学生にとっては、中学校生活における最初で最後の修学旅行であり、生涯の記憶に残る良き旅となるよう祈りつつ、職員も生徒らと一緒に同行しています。

行程としては、新函館北斗駅から新幹線に乗車して青森県に入り、今年世界遺産登録された三内丸山遺跡の見学を皮切りに、県内の郷土史に触れたり温泉宿で寛いだり水族館で見慣れぬ海洋生物に目を凝らしたりと、地続きではない本州の空気を存分に吸ってきました。そして、津軽海峡を渡り北海道に戻ると、アップルパイづくりや蕎麦打ち体験等で、大沼学園のある七飯町の産業を実感する姿もありました。

旅行の過程では、あらゆる事物が刺激となって子どもたちの好奇心をくすぐります。そして、公共空間では、周囲の一般客に対する心遣いを意識したマナーを学ぶ機会ともなります。我々が想像する範疇を大きく超えたモノが、あらゆる



体験を通して子どもたちの中に吸収されていったのではないかと思います。このように、普段の学園生活から園外へと外出する機会は、子どもたちにとって自分自身を見つめる好機となり、また社会に

おける自他の存在をより広角で自覚できる好機ともなりえるでしょう。

今回の修学旅行で、子どもたち一人ひとりがどのようなモノを持ち帰ってきたのか、ぜひ皆様には注目してご覧いただきたいと思います。

「修学旅行の感想」

初日は、三内丸山遺跡と北のまほろば歴史館に行きました。三内丸山遺跡では、大型掘立柱建物の復元を見て、大きさや建物の高さを実際に見ることができました。北のまほろば歴史館では、青森にあったと言われる着物や道具が置いてあり、居住の風景を実際に見られて良かったです。

二日目には、浅虫水族館、八甲田丸、ワ・ラッセに行きました。浅虫水族館では、イルカショーや見たことがない魚も見ることができ、嬉しかったです。八甲田丸では、当時のままエンジンルームやグリーン席が保存され使われていたのがすごいなと思いました。ワ・ラッセでは、ねぶた祭のとき踊り手である跳人（はねと）体験をしました。ねぶた祭では、二時間ぐらい踊り続けるそうです。



三日目は、蕎麦打ちやアップルパイ作りをしました。蕎麦打ちは、こねたりするところまではできたけど、切るところが難しくうどんのようになってしまいました。アップルパイ作りは、自分達で好きなように模様をつけたりする作業もあり楽しかったです。

今回の修学旅行では、一列になって移動することを忘れていたこともあったけれど、途中から気付いて直すこともできました。あと、最終日のアップルパイ作りや蕎麦打ちで、失敗したところもあったけれど最後まで取り組み、楽しむこともでき、良い思い出になりました。D.H



僕は、まず青森県の歴史を学びました。北のまほろば歴史館で船や着物、家など色々な物を見ました。他に、八甲田丸で船の中を見学したりねぶた祭の歴史を知りました。

次に、縄文時代も学びました。世界遺産に登録された三内丸山遺跡では、縄文時代の頃にあった家などがたくさんあったのですが、その中でも大型掘立柱建物がすごく、大きさが4.2m間隔で床を作った建物です。屋根については、色々な説があるから今は復元していないそうで、今でも謎が多い時代だそうです。

あとは、水族館でイルカショーを見たり石井観光農園で蕎麦を作ったりアップルパイを作りました。

自分たちで手作りしたものは、より美味しく感じました。

修学旅行は、もうあと一回しかありません。なので、今回学んだことを生活に活かしていきたいです。

T.M

「来年は私も走りたいマラソン大会」

本年も10月にマラソン大会を実施しました。9月頃になると「またマラソンの季節が来たな・・・」という気持ちになります。練習メニューは私が作成し、あわよくば私のダイエットにもなればと思いつつ、子どもと一緒に走ります。私がペースメーカーとなり、「このペースで走ればタイムはこのくらい」という目安を子どもに教えるのですが、最初は誰も私に付いてこられませんでした。それではペースメーカーとしての役割を果たせていないため、ペースを落として走ろうかとも考えましたが、あえて変えずに練習を続けました。練習を重ねると、徐々に私と同じペースで走ったり、追い抜いたり、成長する子どもたちの姿が見られました。私も負けず嫌いな性格で、ゴール寸前でペースメーカーとしての役割を捨て、追い抜いていった子どもを全力で追いかけるなど、良い意味で競いながら練習を続けました。

大会は、大沼湖畔で行われます。私は行事担当のため、一緒に走りたい気持ちを抑えつつ子どもの応援に努めました。練習で私を追い抜いた小学生は素晴らしい記録で見事優勝。誇らしく思いながら、私も負けてられないと、何故か対抗心がありました。それでも子どもたちが一生懸命に走る姿は、そんな薄汚い大人の対抗心をもかき消すほどの力がありました。大会終



盤では、私もコースを巡回しました。最後尾では私の担当する子どもが走っていました。彼は、大会一ヶ月前に肉離れを起こし、練習もろくに出来なかったため、ほぼぶっつけ本番で臨んでいました。それでも止まることなく5.5kmの道のりを走り切りました。私は、当日コース整備があったため作業着に長靴と、走るための服装とは真逆の格好をしていましたが、ゴールまでの直線は子どもと一緒に全力疾走。マラソン大会とは思えない長靴の足音を響かせながらゴールしました。

子どもたちは、一生懸命それぞれに与えられた距離を完走しました。そこまでの過程では辛い練習を乗り越え、本番でも完走したことで得られたものはとても大きいと思います。辛いことを乗り越える力は誰にでもあるので、この先の苦難もサーフィンのように乗りこなして行って欲しいと感じる行事でした。そして、来年こそは、作業着に長靴ではなく、Tシャツ短パンでスタートからゴールまで駆け抜きたいです。

「練習の成果」

10月5日に、マラソン大会がありました。この日に向けて、寮ではたくさん練習をして本番に挑みました。

学校の練習では、3.3kmぐらい走って大体16分でした。そして、僕の目標は「止まらずに一定のペースで走り切ること」でした。練習をしていくにつれ、タイムがだんだん減っていくことに気づきました。

いよいよ大会本番です。スタート地点までバスで移動し、そこで写真を撮りました。

いよいよスタートです。「3・2・1、よーいドン！」と鳴って走り始めました。走っているときには、車から応援してもらったり写真を撮ってもらったりして勇気が湧いてきて、一定のペースでゴールまで目指しました。途中で「3km」「あと2km」「あと1km」と看板が見えてきて、全力を出したりスピードを落としたりしました。走りながら見えてくる大沼湖や紅葉が綺麗でした。

いよいよゴールに近づきます。最後には、ゴールテープを切れて嬉しい気持ちになりました。そして、自分の目標は達成できたかなと一瞬思いました。結果は、14分12秒でとても嬉しかったです。W.H



「マラソン大会を終えて」

僕は、去年に比べて体力も筋肉もつきました。去年は、体力も集中力もありませんでした。今年は、自分で決めた目標タイムを出せるように意識していました。大会本番では、22分を目指していました。結果は25分でしたけど、最後まで走りきれたことが良かったです。走り終えたあとは、気持ちがスッキリしました。楽しい思い出です。T.K



「マラソン大会を終えて」

10月5日にマラソン大会が行われました。天気はよく晴れ、自分も他の皆も気持ちよくスタートを切れたと思います。最初から思い切り走る人もいれば、ゆっくり走って体力を温存しておく人もいました。僕は、最初はゆっくりスタートしたので前を走る人のことは意識していませんでしたが、周りの景色を楽しみながら走れました。自分の目標タイムは25分でしたが、途中には坂などがありあまりスピードを出せず、一定のペースで走ることにしました。後半になると、少しずつペースを上げて走りました。ゴールテープが見えてから、最後は思い切りダッシュしてゴールしました。

とても苦しい場面はあったけど、先生方に励まされ、力を出し切ることができました。それに、とても気持ちよく走れました。K.R

行事報告②

ここでは、主に7月から10月までの間に行われた学園行事の一コマをご紹介します。



キャンプ行事の様子①

お昼に BBQ をして楽しみました。火を着けるところから自分たちの力で！

キャンプ行事の様子②
北海道の名物ジンギスカンをいただきます！



中学二年生の
宿泊研修での1枚。
函館山の工房で
手作りのガラス細工に挑戦！



宿泊研修初日に訪れた、
「箱館奉行所」での一枚。
厳かな雰囲気に入れ、気分は幕末の志士かな！？



ご寄食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(令和4年7月～10月)

函館家庭少年友の会 様 財津自工 様 七飯更生保護女性会 様
函館心の里親会 様 (株)大沼合同遊船 様 南秀人 様 長谷川美雪 様
赤坂秀彦 様 伊藤友希 様 佐藤隆三 様 高橋一正 様 三浦辰也 様
澄マサノ 様

編集後記

昨年度、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて開催が中止された学園行事が複数ありました。そのような中で、今年度の夏期から冬期にかけての学園行事が無事に実施できるかどうか、企画段階から実施が危ぶまれることもありましたが、我々職員一同は未来ある子どもたちに成長の機会を提供するべく尽力してまいりました。結果として、制限を設けながらもなんとか実施にこぎつけ、子どもたちが各々自分の力を存分に試し発揮することのできるイベントを提供することができました。特に、9月に行われた二年ぶりの大沼地区少年野球大会がその最たる例です。保護者様や関係者の皆様にも、青空の下で子どもたちの伸び伸びとしたプレーをお見せすることができ、児童福祉における支援者冥利に尽きる所でございます。また、普段から当学園へのご支援をいただいている皆様にも改めて感謝申し上げます。

今年度最後となる次号も、どうぞお楽しみにお待ちしております。

福祉指導員 佐藤淳哉



大沼学園の眼前に聳える
今季初冠雪の北海道駒ヶ岳

学 園 の 動 向

令和4年7月～10月

7月

- 1日 室蘭児童相談所苫小牧分室 児童移送のため来園・面談。
- 4日 係長主査会議 教育相談～14日
- 6日 運営会議
- 7日 函館児童相談所 児童移送のため園所。職員会議
- 11日 内科検診 避難訓練
- 12日 函館高等支援学校 教育相談
- 13日 釧路児童相談所 児童移送のため園所。白樺高等養護学校 教育相談 支援会議 給食会議
- 14日 大沼公園駅花壇整備。
- 22日 第1学期終業式
- 24日 理髪
- 25日 室蘭児童相談所苫小牧分室 面接のため来園。
- 27日 医診
伊達市立星の丘小中学校教員見学。
- 28日 キャンプ～29日

(7月 入所 3名 退所 0名)

8月

- 1日 夏期一時帰省開始。～12日
- 3日 残留行事(BBQ、プール。)
- 4日 旭川児童相談所及び帰省自宅訪問し進路打ち合わせ。
- 5日 残留行事(映画鑑賞)
- 6日 残留行事(温泉入浴)
- 7日 ローダー取扱業務特別教育参加
- 8日 残留行事(温泉入浴)
函館児童相談所 来園面接。
係長主査会議
- 9日 残留行事(プール)
- 10日 帯広児童相談所へ児童移送(一時保護)
- 11日 残留行事(大沼遊覧、温泉、外食)
- 13日 療養寮開設(新型コロナ感染症)
- 15日 帯広児童相談所より児童移送。
- 17日 医診 運営会議
- 22日 第2学期始業式 内科検診
- 23日 性的虐待対応研修会(オンライン)
- 24日 職員会議
- 25日 宿泊研修旅行(後期8年生)～26日
支援会議
- 27日 小型車両系建設機械運転業特別教育参加
～28日
- 28日 療養寮閉鎖(新型コロナ感染症)
- 29日 北光社ふくじゅ園(児童養護施設)見学
旭川児童相談所へ児童移送(一時保護)
- 31日 寮担当者会議

(8月 入所 0名 退所 0名)

9月

- 1日 室蘭児童相談所 入所予定児童との面接
- 2日 係長主査会議
- 3日 野球部練習試合(函館児童相談所)
- 4日 理髪
- 5日 七飯町立岳陽学校 鈴蘭谷分校 開校日
- 6日 社会科見学(小学生)
武蔵野研修～8日
- 7日 運営会議
- 10日 大沼地区少年野球大会～11日
- 11日 北海道教育庁学校教育局長視察
- 12日 振替休日 内科検診
- 13日 振替休日 買い物訓練
- 14日 職員会議
- 15日 大沼公園駅花壇整備
- 16日 室蘭児童相談所児童移送のため来園
函館家庭少年友の会 施設見学
- 20日 修学旅行(後期9年)～22日
- 21日 支援会議 医診
- 27日 全国児童自立支援施設職員研修会
～29日
- 28日 釧路児童相談所来園面接。～29日
- 29日 修学旅行(前期6年生)～30日

(9月 入所 1名 退所 0名)

10月

- 3日 施設連絡協議会(室蘭児童相談所)
- 5日 マラソン大会
- 6日 函館市立鍛神小学校校長来園面接
- 7日 釧路児童相談所へ児童移送
- 8日 和太鼓クラブ練習会
(七飯男爵太鼓創作会)
- 11日 道政パネル展(渡島総合振興局)
～13日
- 12日 大沼公園駅花壇整備 運営会議
- 13日 職員会議
- 17日 救急講習(七飯消防署)
内科検診
- 19日 医診 支援会議 給食会議
- 20日 児童相談所職員受け入れ研修(第1班)～
22日
旭川児童相談所 来園面接。
- 21日 避難訓練
- 22日 和太鼓クラブ練習会
(七飯男爵太鼓創作会)
- 24日 函館市立鱒川小学校校長来園面談。
- 26日 寮担当者会議
- 27日 児童相談所職員受け入れ研修(第2班)～
29日
中央児童相談所次長 来園
- 29日 ワックスがけ
- 30日 理髪

(6月 入所 0名 退所 1名)